

日本早期認知症学会 第13回理事会議事録

- I. 日 時 2012年9月15日(土) 18:00~19:30
- II. 場 所 アーバンヴィラ古名屋ホテル8階「チェディー」
山梨県甲府市中央1-7-15
- III. 出席者
- | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--|
| 理事長 | 志村 孚城 | | | |
| 副理事長 | 金山 重明 | | | |
| 理 事 | 大杉 敦彦 | 大野ゆう子 | 奥山恵理子 | |
| | 小山 幸代 | 酒谷 薫 | 篠原 豊明 | |
| | 中村 博彦 | 二瓶 美里 | 本多 満 | |
| | 松井 孝嘉 | 山崎 雅勇 | 湯浅 龍彦 | |
| | 新井 弘幸* | 井上 剛伸* | 大城 昌平* | |
| | 工藤 千秋* | 小林 清市* | 清水鴻一郎* | |
| | 藤本登四郎* | 吉川 幸弘* | (*は欠席) | |
| 監 事 | 小谷 洪司 | 佐藤 詔司 | | |
- (理事) 22名/出席者 14名・委任状 8名
(監事) 2名/出席者 2名

議事に先立ち、理事会構成委員 22名中、出席者 14名、委任状 8名、合計 22名であることから、本学会会則「全役員の2/3以上をもって成立する」(第6条第1項)に則り理事会は成立することが宣言された。

IV. 議 事

1. 審議事項

(1) 議長、議事録署名人の選出について

議長に志村孚城理事長、議事録署名人に山崎雅勇理事、二瓶美里理事が選出された。

(2) 2011年度事業報告(案)の承認について(資料1)

2011年度事業報告(案)について、資料1のとおり説明があり、これを了承した。

(3) 2011年度会計報告書(案)の承認について(資料2)

2011年度会計報告書(案)について、下記のとおり説明があり、これを了承した。

- ① 収入の部においては、個人年会費、団体年会費、学会誌売上等で収入小計が2,280,990円、前年度繰越金1,088,995円でその結果、収入合計が3,369,985円であった。
- ② 支出の部においては、支出小計で1,534,786円であり、次年度繰

越金を1, 835, 199円として支出合計が3, 369, 985円の決算になった。

会計監査について、小谷洪司監事から総勘定元帳、銀行預金残高及び通帳等をチェックしたが問題はなく、その結果、適正かつ正確であると認める報告があった。

また、東日本震災の義援金が学会の口座に223, 051円がある旨の報告があり、志村理事長からその使用方法として、会員からボランティアなどの活動提案をいただきメール理事会を経たうえで義援金を活用する旨の提案があり了承された。

(4) 2012年度事業計画（案）の承認について（資料3）

2012年度事業計画（案）について、資料3のとおり説明があり、これを了承した。

(5) 2012年度予算計画書（案）の承認について（資料4）

2012年度予算計画書（案）について、下記のとおり説明があり、これを了承した。

① 収入の部においては、個人年会費、団体年会費、学会誌売上等で収入小計を1, 067, 100円、前年度繰越金1, 835, 199円とし、収入合計で2, 902, 299円の見込みとした。

② 支出の部においては、支出小計で1, 270, 000円であり、次年度への繰越金を1, 632, 299円とし支出合計が2, 902, 299円の見込みとした。

(6) 会則変更に関する承認について（資料5）

会則変更に関する承認について、下記のとおり説明があり、これを了承した。

① 2012年6月27日のメール理事会において「学会論文誌」の名称を「学会誌」に変更することが承認され、これに伴い、会則に表記されている「論文誌」を「学会誌」に変更することとした。

(7) 第16回大会の大会長の選出について

第14回大会の大会長を新井理事が担当することになっていたが、急に都合がつかなくなったため、志村理事長（浜松）が担当となった。第15回大会は湯浅理事（千葉）が担当することが決定されている。

準備期間も必要であるため、本日、第16回大会長の選出の提案があった。候補者として中村理事、酒谷理事、本多理事が挙げたが、会場の確保、入会后浅い等の理由により固辞された。

第14回大会長をパスした新井理事を第一候補として、再度依頼することとした。

(8) 従来の抄録集・講演録を学会誌に取り込むことについて

従来の抄録集・講演録を学会誌に取り込むことについては、工藤理事からの提起であるが本日欠席のため志村理事長から下記の提案の紹介を行った。

- ① 大会の抄録集について、従来は大会固有の取り扱いであったが、抄録集を学会誌の中に入れ、全会員に配布したい。
- ② 従来大会後発行している講演録について、学会参加者のみに配布されているため講演録を書いても学会の会員全体に行き渡らない問題があること。また、今度から座長推薦論文制度を採用するとなれば、抄録を書いて発表する、その次に講演録を書く、その後に優秀な論文は論文誌も書くことになり、労力がかかりすぎることから講演録の発行は次回から不要としたい。

討論の結果、以下の結論に達した。

- 抄録集を学会誌の一つにし、特別号として全会員に配布する。
- 第13回大会の講演録をもって講演録の発行は中止する。
- 第13回大会以降、座長推薦論文制度を徹底させ、原著論文の掘り起こしを行う。

2. 報告事項

(1) 会員数及び新入会員について

2011年9月1日から2012年8月31日までの入退会者の状況が報告された。新規の会員増を図るため、企業や関係団体に働き掛けることを承認した。その際、学会名で趣意書を作成し理事で分担して働きかける。また、趣意書については湯浅理事が作成することとなった。

(2) 第14回大会の準備状況報告

第14回大会長の志村理事長から、2013年9月21日から22日まで、浜松市において開催し、その準備状況が報告された。

(3) 第15回大会の準備状況報告

第15回大会長の湯浅理事のから、2014年9月13日から14日まで、千葉県佐倉市において開催し、その準備状況が報告された。